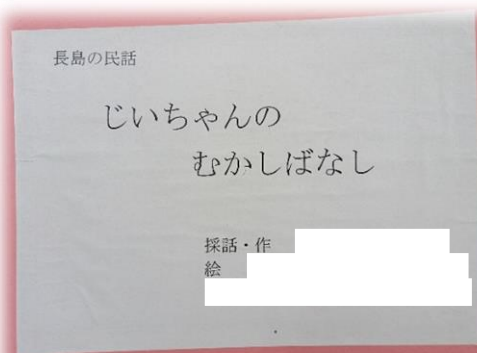


長島町立平尾小学校「図書委員会」

平尾小学校は、令和3年度長島町読書推進モデル校として読書活動の充実に努めています。その中心となって活動しているのが、4年生から6年生までの児童5名で構成する図書委員会です。一人でも多くの友だちが図書室を訪れたくなるように、そして、1冊でも多くの本を読んでもらえるようにという願いをもち、工夫を凝らした活動を行っています。本校は、「あじさい読書週間」「コスモス読書週間」「菜の花読書週間」と、年3回読書週間を設定しています。今回は、「あじさい読書週間」で図書委員会が行った民話の読み聞かせを紹介します。



本校には、地域の方が長島に伝わる民話を集めて作った「じいちゃんのむかしばなし」があります。その民話集から本校区が舞台となっている「うどどん」の読み聞かせを録音し、給食時間の放送で流しました。「うど」とは「巨人」のことです。本校区が舞台ということもあり、読み聞かせを聞いた子供たちからは「本当にうどどんがいたのかな」や「うどどんの足跡を探しにいきたい」といった感想が出てきました。2学期の「コスモス読書週間」では地域の方を招き、語り聞かせ会を企画しています。



うどどんの話

長島には、あちこちにうど（巨人）どんの話があります。これからお話しするのは、平尾のうどどんです。

昔、平尾にうどどんが住んでいました。こんな大きな人が、どうして生まれ育ったのか、誰も知りません。とにかく大きな体だったことは確かです。

だから体に合う着物もなく、いつもふんどし一枚でした。

また、歩くと、その足跡にはボコボコと穴ができます。石の上でも一緒です。そんなわけで、せっかく耕した畑でもすぐ踏み荒らしてしまうので、里の人にも嫌われてしまい、友だちもなく独りでひっそりと生活していました。

しかし、もう何日も何も食わず、ゴロゴロと寝転んでばかりいましたのでお腹もすいてきました。

うどどんは、むっくり起き上がると、歩きだしました。まず片足を平尾の仁田元（字名で母良木から行人岳に向かう途中の岡）に、もう一方を北方崎に、そして、もう一步踏み出し、長島海峡を一跨ぎして天草に片足を置きました。（今でもその時の足跡が仁田元と北方崎の石の上にあるそうです。）そして、ふんどしの前垂れで雑魚をすくって食べようと、前かがみになりました。そのとき、スルツと足が滑って海に落ちてしまったのです。

うどどんは、あまりにも大きすぎたので、起き上がることでできず、とうとう溺れてしまい、戸島になってしまったということです。

長島町立平尾小学校 ～アイデアいっぱい 笑顔と元気 みんなが主役 平尾小～
児童数 71 名

鹿児島県出水郡長島町平尾 832 番地

TEL 0996-88-2020